校長室だより

令和５年度
９月２０日
ＮＯ．２３

稲刈りをとおして「ふるさと学習」

「実りの秋」ですが、９月になってもまだ暑い日が続きます。日中の気温も連日３０度を越えます。９月の長雨か、すっきりしない日もありましたが、天気の晴れ間をねらって、赤とんぼが爽やかに飛び回ります。通学路から見える彼岸花も、きれいに映えます。日差しは厳しいですが、思えば朝夕は涼しくなり、（山の学習でも朝は肌寒いほどで、）知らぬ間に、秋はそこまでやってきています。

「収穫の秋」５年生の子たちが中心となって、愛情を注いで育ててきた稲も、穂をたわわに垂らし、秋を感じさせてくれます。９月１４日には、全校での稲刈りが行われました。雨で延期となりましたが、日中は、夏を思わせる日差しが稲穂を輝かせます。足元の緩い中、おそるおそる長靴で田んぼに足を踏み入れる子供たち。１，２年生の子も、５、６年生の子に教えてもらいながら、おそるおそる稲刈りが始まります。思えば、田植えの時にまだ細かった苗は、大雨やこの夏の猛暑を乗り越え、たくましく何倍にも成長しました。困難を乗り越えたものは強いと言いますが、このたくましさは、今を生きる子供たちにとって、今を生きる子供だからこそ、必要なものかもしれません。

「すがいは刈り取ったわらだけでできているよ。しっかり束ねれば絶対ほどけないよ」「昔の人は、全部、人の手で刈ったんだよ」昔の人の知恵や苦労がここには詰まっています。「円高による肥料代高騰もあり、刈り取ったわらは、砕いて牛のエサにする」「だから農薬も使わないで育ててる」「さすが、コンバインを使うと速いね」現在の環境問題にも経済にも、SDGｓにも直結しています。「ふるさと学習」から多くのことが学べます。

５年生は稲刈りに先駆けて、刈った稲を束ねる「すがい」作りを行いました。みんなすぐにコツを覚え、大人より上手に編む子もいました。昨年度行った６年生も手伝ってくれましたが、しっかり編み方を覚えていて、教えてもらわなくても手早くきれいに作る子もいます。また稲刈りでも、毎年行っている５，６年生は、もうすでにカマの使い方は知っており、何も言わなくても、１，２年生に、教えてあげています。昔は、きっと様々なことがこうして継承されていったのだろうと思います。続けていくとは、こういうことなのでしょう。さらに、今年の６年生の子で、社会の自由研究で「ぼくが思いえがく秦梨創生案」のテーマで、学区の見どころをまとめた子もいました。学区の未来を考えられること、それこそ「ふるさと」が子供の中に宿っている証であると感じました。こうして学区と自分の生活や意識と結び付けて考えることも、「ふるさと学習」のねらいであります。